

支部だより

令和 6 年 10 月
第 101 号

冒頭のご挨拶

秋冷の候、会員の皆様方に於かれましてはますます
すご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は加古川支部事業活動へ格別のご高配を賜
り、厚くお礼申し上げます。

最近では毎年のごとく口にする言葉になってきて
おりますが、まだまだ暑い日が続きますが体調管理
には十分留意して健康管理を行ってください。とい
う言葉をいつまで聞くのかなって思っている今日こ
の頃です。

さて、毎年この時期は青年部の事業が忙しくなっ
てきます。近畿建築祭(滋賀大会)9/28 日、恒例行事
の楽市楽座が 10/19.20 日。今年は今までの日岡公
園ではなくて、加古川市役所で開催されると聞いて
います。10/13 日一級製図試験監督員。10/25 日鹿児
島(全国大会)。10/26 日 高砂市 市ノ池公園奥の
鹿島扇平自然公園での子供の秘密基地上棟、11/2
日ファミリーツアーetc…と様々な催しが企画予定さ
れています。

日にちは各委員会より発表あるかと思えます。忙
しい時期でもありますが参加できる方は是非とも参
加していただければと思います。

まだまだ残暑厳しい日が続き、日本の四季が二季
になってしまいそうですが、体調には十分注意して
いただき仕事、土会活動に注力していただければと
思います。

(副支部長 長尾 淳一)

サステナビリティを体験

青年部が取り組んでいます加古川河口「しおかぜ
小道」東屋の屋根葺き替えですが、去年は古い葺き
材を撤去し、河口付近のヨシ原の刈取り整備を行
いました。今年はいよいよ刈り取ったヨシ材を小屋組
に葺く作業に入ります。

東屋は 10 数年前に青年部が建てたのですが、当
時作業にあたった元青年たちもその後、カヤ葺きな
ど経験しておらず改めて作業をするとなると、イメ
ージが先行し実技の伝承に不安があります。そこで
青年部メンバーが京都府南丹市美山町へ、カヤ葺き
の実技体験に行くと聞き、9 月 22 日(日)同行させて
もらいました。

参加者は東田さん、森さん、永田さん、岩本さんと
小西の 5 名です。岩本さんは現地で合流するとのこ
とで、永田さんの車で美山町「かやぶきの里」に向か

いました。



屋根ふき体験

体験では、稲わらを小屋組みに葺く作業を教わり
ました。道具は竹やり状に削った先端に縄を通す穴
を開けた 1メートル強の竹棒と葺き材の小口を整え
る断面がノコギリ山状の当て板だけです。作業は 2
名一組で小屋組の内と外に分かれ、外が小屋組に葺
いた稲わらを竹棒で突き通し、内が縄をやり取りし
ます。続いて、引き通した縄の端を他方の縄に差し込み
引き回して 2 重巻きにする方法を教わりました。これ
こそ知恵の伝承だと思いました。

次に外の者が小屋組と稲わらを強く縛って固定し
ます。縛り方は「男結び」ですということ、何度
か実演してくれましたが会得できませんでした。講
師の方もユーチューブ動画で練習したそうです。



加古川河原のヨシ刈取り

講師の方から昔は近くに茅場があり、刈り取って
屋根葺きに使っていたそうですが、現在はそれもな
くなり、葺き替えの茅は、九州阿蘇から仕入れている
そうです。一軒の葺き替えには一千万円以上の費用
が掛り大変高価なものとなってしまった。それでも

失ってはいけない大切なものとして保全に努めているとのこと。

さて、青年部が刈取り整備した河口のヨシ原ですが、順調に生育し良いヨシが今冬、収穫できそうです。これから道具の制作や資材の調達、ヨシの刈取り、屋根葺きと忙しくなります。何より多くの人手が必要です。



東屋葺き材撤去

青年部に限らず都合の付く方は一度覗きに来ていただけたらと思います。また関心のある方にもお声がけいただけたら、活動の輪が広がります。

近代以前、民家の建設資材は地産地消、身近で容易に得ることができるものが用いられてきました。東屋屋根葺き替えは、この地産地消の実践とサステナビリティの啓発ですが、自分たちが地域と協働して創り上げる地域貢献活動でもあると思います。

活動スケジュールは会員連絡メールでお知らせしますので、多くの方の参加をよろしくお願いいたします。

(支部長 小西 敏文)

ええはなしやん

第 80 回

高砂秘密基地事業について

高砂の市ノ池公園の少し北に、鹿島・扇平（おうぎだいら）自然公園という場所があるのをご存じでしょうか。

市ノ池公園内のキャンプ場を脇目に遊歩道を抜けると、傾斜のある原っぱが広がり、木で覆われたトンネルがさらに奥にあり、となりのトトロの世界のような、自然に囲まれた場所があります。

私も市ノ池にはザリガニ釣りに子供とよく訪れていましたが、奥にこんな場所があるのは知らなかったもので、もう少し子供が小さいときに見つけていたら、びっくりしただろうなと思いました。

かつては大きな遊具などがあったそうですが、今は何も活用されておらず、もっとステキな場所にしたいという思いを持ったメンバーが集まって、子供の秘密基地を作ろうというプロジェクトが進んでいます。



鹿島・扇平自然公園

メンバーは、高砂市議会議員の坂本まりさん、特定非営利活動法人高砂キッズ・スペースのモジャさんこと、竹内さんが主となって、子供たちのアイデアで秘密基地を作るという夢のあるプロジェクトです。

夢をかたちにする協力を加古川支部建築士会がさせていただくことになりました。支部メンバーは、小西支部長、高橋（賢吉）さん、林さん、杉山さん、速水の5名です。

アイデアの選考からは、私たちも参加させてもらい、高砂市内の児童クラブの子供たちの200枚を超えるイラストの中から、3つのアイデアを軸として選び、面白いアイデアも足したりしながら、図面を作成させていただきました。



秘密基地の打合せ

建築士会に入ってから、設計のお手伝いをさせていただくのは初めてで、建築士として協力できることはとても嬉しかったです。

最初は夢を壊すようなことになったらどうかと、ためらいもありましたが、自分の書いたものが形になることへの喜びや楽しさは、今も仕事をしていて一番感じることなので、子供たちに少しでも感じてもらえたらいいなと思います。

アーキテクトやデザインへの関心が広がってほしいです。

うまくいけば、年内にかたちになるそうなので、どうぞ楽しみにお待ちください。

(青年部 速水 香織)

高砂 KIDS 夢 PARK 私たちの夢の公園の実現に向けての秘話

子どもたちが遊ぶ子どもたちの公園を、子どもたちが自らの発想で創造する事を通して、地域への愛着の醸成と、地域社会の一員である自覚を養う事を目的に活動するため主催者の高砂 KIDS 夢 PARK という任意の団体が設立されました。

今般、せっかくの自然あふれる広大な土地ながら、その魅力を十分に活かしきれていない鹿島・扇平自然公園の活用について、高砂市内の小学生を募集し、応募のあった子どもたちと共に考えた公園プランができ、市長にプレゼンも行い、市長から「みなさんの思いが十分伝わった。一緒になってやっていきましょう」と前向きなお言葉も頂いています。



「夢の公園」発表の神戸新聞記事

実際には、公園内に建築物を造るという事業は難しく、全てを自分たちの手で実現することができないという現実にはぶち当たりました。

そのような中、一つでも子どもたちの夢を実現したいということで、希望の多かった子どもたちのための秘密基地を造ろうということになりました。

建築のことがわからない素人集団では、実現が難しいということで、私たち建築士会加古川支部に協力を求められ、小西支部長の英断で、理事会に建築士会として協力していく方向が示され、了承を得ました。

高砂市内小学生から 200 枚を超える応募作品の中から、その特徴を捉えて、2つの工作物として実現するために、速水さんと杉山さんが図面化してくれました。また、プレカット図は林さんが担当して、小西支部長が総合的に監修、高橋は市・県との書類のお手伝いを行いました。

子どもたちの作品の一部を下記に掲載します。具体的な図面を紙面の都合で載せられず残念です。





子どもたちの作品の一部

10月26日現地で建て方を行います。ぜひ、会員の皆様方にも参加して頂いて、子どもたちと一緒に工作物を造るお手伝いをお願いできればと思います。

また、11月16日には、工作物に色を付けたり、アクセサリーを付けたりし、完成披露式を行う予定です。

詳しい予定は、高橋までお問合せください。

多くの方にご参加いただき、子どもたちの夢を叶えるお手伝いをしていただければ、幸いです。

連絡先 高橋賢吉 090-4904-4812

編集後記

今号は鹿島・扇平自然公園での秘密基地づくりについて紙面を多く使ってしまいました。

紙面の都合で、子どもたちのアイデアを引き出した図面を描いてくださった速水さん、杉山さん

の図面を載せられなかったのは残念ですが、現地に来ていただければ、見ていただけるので、ぜひ遊びがてら来てください。

小西支部長からの投稿で、青年部が取り組んでいます加古川河口「しおかぜ小道」東屋の屋根葺き替えについて、詳しくわかりました。

何回か支部だよりでもお伝えしていると思いますが、大変な労力を使っただけの活動に頭が下がります。

私事ですが、9月3日理事会が始まる45分ほど前に家の階段上から真っ逆さまに落ちて、肩の脱臼だけでした。「階段から落ちた」というと皆様様に「お酒飲んでたん？」と言われるのですが、名誉のために申しますが、理事会の前なので飲んでいません。

家の階段は直階段だったので上から下まで一直線に落ちていきました。落ちて起き上がって、痛いのは間違いないのですが、両腕共くるくる回りましたので、打っただけかと思ったら、左側の骨と肩が異常に段差ができていて、こりゃおかしいとなり、整形外科へ行きました。結果は、骨に異常はなく、脱臼ということでした。

階段の途中ではスムーズに落ちていったので、何とかなるかぐらいに思っておりましたが、よくよく考えてみると死亡・寝たきり・半身不随他いろいろなことが考えられ、脱臼程度ですんだことに感謝した次第です。

何故こんなことを書いたのか。直階段の怖さを体感したので、回り階段をお勧めするか、何故か滑ってしまって上から落ちたので、滑りにくい素材の使用を心掛けなさいといけないなあと思ったりしました。皆様はどう思われますか？

(広報委員会委員長 高橋 賢吉)

連絡票

メールかFAXで送付してください。(郵便可)

※ 住所・連絡先等の変更は必ずお知らせ下さい。(個人情報保護法に基づき管理致します)

公益社団法人 兵庫県建築士会 加古川支部
事務局／吉備建築設計室内 Tel,Fax 079-423-6350
支部長 小西 敏文 直通 TEL:090-7889-2626
E-mail: kentikusikai.kakogawasibu.2019@gmail.com

